

## 事前評価報告書

**事業名:** “みずなで咲かそう”笑顔の花プロジェクト

**実行団体:** 特定非営利活動法人石州みずなの里

**報告者:** 特定非営利活動法人石州みずなの里

**資金分配団体:** 特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター

**実施時期:** 2021年7月～2024年1月

**対象地域:** 島根県浜田市

**直接的対象グループ:**

**間接的対象グループ:**

### 概要

<b>事業概要</b>
障害者指定生活介護施設石州みずな事業所に交流サロン“みずな”を開設、生きづらさを抱える子ども・若者等が気楽に集い、語り合い、サロンを居場所にして自分自身と向き合い、自分を認識する事が出来るよう支援します。話を共有し寄り添い、三隅町出身三浦義武氏の考案したヨシタケコーヒー、三隅町特産の石州和紙関連の教室を通し地域の特性を生かした活動を体験する機会を提供し、体験が生きがいや就労、自立に結びつくことを支援します。一人一人が笑顔の花を咲かすことの支援を目標とします。①居場所の創出としての交流サロン“みずな”は個を好む当該者に配慮して個別のスペースを中庭に設置します。②みずなの利用者と区別するため新しくみずなの一角を多目的トイレ（オストメイト設置）にリフォームします。③さらに手厚く当該者と向き合うために職員を1名ないし非常勤3名を配置します。④体験活動として珈琲・和紙の教室を開催します。⑤当該者同士の交流促進のため交流会を開催します。
<b>中長期アウトカム</b>
十八十色の生きづらさを抱えた子ども・若者等が住みたい場所楽しく笑顔で生きる事の出来る浜田市を目指します。また、同じように利益至上主義とは異なる事業展開をする浜田の宝、石州和紙やヨシタケコーヒー、この二つが出会う事で起こる相乗効果を期待します。まずは、当該者が家から一歩出る事、そして自分を見つける事、それが始まりの物語。自分らしさを見つけて次のステージに向かいます。
<b>短期アウトカム</b>
安心できる場所が見つかる
自分と向き合い、自分を知ることが出来る
珈琲に興味を持ち、珈琲の仕事に関わる
和紙に興味を持ち、和紙の仕事に関わる

### 事業の背景

<b>(1) 社会課題</b>
厚生労働省によると全国50万人以上の引きこもりがいると言われており、様々な支援策が講じられていますが、ニートや引きこもりの子ども、若者たちに有効な方策は、甘やかさずびしびしと厳しく鍛える訓練ではなく若者と共に歩み支援する大人がいることが、人間に対する安心と信頼を回復させ、それが自立への歩みを可能にする課題解決の一つであると考えている。
<b>(2) 課題に対する行政等による既存の取組み状況</b>
“平成21年度以降、全国にひきこもり地域支援センターが設置され、島根県でも平成27年度に設置された。 また、都道府県・市町村においてはひきこもり支援従事者養成研修・ひきこもりサポーター養成事業を行っている。”

### 評価実施体制

内部/外部	評価担当分野	役職等
内部	事業の課題の分析・事業計画の分析	石州みずな事業所施設長
	事業設計の分析	石州みずなの里サービス管理責任者
外部	事業課題の分析	浜田市三隅支所市民福祉課健康福祉係
	事業課題の分析・事業計画の分析	ひきこもり対策事業経験者

## 評価実施概要

### 評価実施概要

評価①特定された課題の妥当性 課題の問題構造を十分に把握しているか

実施日：7月~8月

実施方法：厚生省資料より・担当行政職員、事業経験者ヒアリング当団体職員と討議

評価②特定された事業対象の妥当性 事業の対象グループの選定は適切か、またどのような問題。関心・期待・観念などを持っているか

実施日：8月

実施方法：厚生省資料より・担当行政職員、事業経験者、当団体職員よりヒアリング

評価③事業設計の妥当性 最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業計画はできているか。また、その内容の達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか。

実施日：8月

実施方法：事業経験者ヒアリング当団体職員と討議

評価④事業計画の妥当性 達成したい目標に対して妥当な活動内容が設定されているか。また、計画の妨げとなる事象が十分検討され、それを軽減するための対策は検討されているか。

実施日：8月

実施方法：事業経験者ヒアリング当団体職員と討議

### 自己評価の総括

「生きづらさを抱える子ども若者等」を対象に行う"きずなで咲かそう"笑顔の花プロジェクトは生きづらさ故「ひきこもり」を余儀なくされた当該者や生きづらさを抱えつつも社会生活を送る子供や若者に気案に訪問し心の内を話せ、自分自身を発見する場所づくりです。今回の評価関連の作業を行う事で、情報を得ることの難しさと言う問題点が判明しました。それ故問題解決に時間がかかるという事も認識しました。このことによりこの事業の解決が急務であると確信しました。情報の収集と整理は当該者の規模を知るために重要なポイントとの一つになります。コロナ禍の現状を踏まえ、より安全安心な居場所づくりの為に設備や人材を整え、社会的な信頼を得ることが出来る様、情報発信等に力を入れて事業を進めていく必要性を感じました。

評価結果の要約

評価要素	評価項目	考察（妥当性）	考察（まとめ）
課題の分析	①特定された課題の妥当性	概ね高い	<p>【課題の小項目】課題の問題構造を十分に把握しているか</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】厚生省の示す「ひきこもり」の定義と現状より全国の「ひきこもり」の人数は50万人と言われている。ひきこもりの問題は社会問題が複雑に関連した構造をしており社会問題としても解決が急務であるとされる。「だれ一人取り残されない社会」を構築する為に解決が必要である。また、三隅町の現状について支所の担当部署職員、事業経験者に聞き取りをした所、「ひきこもり」の家族や知り合いを抱えている方は存在するが個人情報等の取り扱い上詳しい情報を示すことは出来ないとの事で情報を得ることは難しい。当法人も年間5人程度の相談を受けているが、事業所の性質上事実に気軽に相談に応じることが出来ない事でジレンマを抱えている。</p>
	②特定された事業対象の妥当性	概ね高い	<p>【課題の小項目】事業の対象者グループはどのような問題・関心・期待・観念などを持っているか</p> <p>【評価計画に基づく調査の結果】当該者がひきこもりとなる理由は多彩で、生物学的な要因が影響することが多く、たとえば統合失調症やうつ、強迫性障害やパニック障害などの精神疾患が起因する場合や生まれながらの障害などが起因するものなど。また、社会的要因、いじめやきつい労働、などによるものもある。①傷つきやすく自信がない。②実績感があり焦りや苛立ちを抱えている。③周囲への不信感や過敏な反応。④助けを求めたいがためらう気持ちがある。などの気持ちを抱えているという事が判明。この事で当該者が気軽に立ち寄り胸の内を話せる場所が必要と考える。また、今回協力を頂く対象者は地域の産業や文化を継承する方々で後継者不足が問題点となり今回の事業での後継者発掘に関して興味をもって協力いただけるとの事。</p> <p>【結論（考察）】当該者が自分の興味・関心を見つけ、表現するきっかけとなるもの。自分で見つける楽しさ・難しさの体験。過去・未来に不安を持つのではなく、現在に集中＝生活の実感を持つことが出来る。また、他者との交流でいろいろな考え方、感じ方があり互いに認め合えること。自分もいい。他人もいい。と気づく事の出来る居場所となる準備を動めている"サロンきずな"の構築は対象者のニーズを把握できている。以上を踏まえて概ね高いと自己評価した。</p>
事業設計の分析	③事業設計の妥当性	高い	<p>【課題の小項目】①最終的に解決したい目標や中間的なアウトカムを達成するための事業設計はできているか。また、②目標・アウトカムや事業設計の内容の達成状況・進捗状況を測定できるように具体的な指標を設定しているか</p> <p>【計画に基づく調査の結果】</p> <p>①ロジックモデルから本事業の全容が理解でき設計者の思いが読み取れると評価する。</p> <p>①サロンを窓口にする事で"支援を行う"と言うハードルを下げる事が出来自然に「ただいま」「おかえり」が交わせる場所となる企画である。</p> <p>①サロンの開設は本人だけでなく家族の相談や息抜きの場所となる。</p> <p>②計画書における具体的な数字は現実的で事業の明確なイメージが出来るものである。</p> <p>【結論（考察）】</p> <p>まずははじめの一歩として気軽に訪れて頂ける様なサロンとしたいとの思いとコロナ禍であることの現状や当該者の実態を考慮に入れた数字であることを理解頂けたと感じる。調査の結果当事業におけるサロンの開設は当該者の心のバリアを外し、抱えている問題のハードルを低くすることが出来ると改めて感じる事が出来る事業設計となっていると判断し。高いと自己評価した。</p>
	④事業計画の妥当性	概ね高い	<p>【課題の小項目】①達成したい目標に対して妥当な活動内容が設定されているか。また、②計画の妨げとなる事象が十分検討され、それを軽減するための対策は検討されているか。</p> <p>【計画に基づく調査の結果】</p> <p>①地域の資源を活用する事で利用される人が"地域で暮らす"事の具体的な実感が出来る活動内容です。</p> <p>①生活介護事業に事業ごと移行する（生活事業所が間に入る）事で、協力する団体も利用者との摩擦を避けられるし利用者も安心して作業が出来内容。</p> <p>①ボランティアを募集して事業に掲載されてない活動も増やすとより利用者が利用しやすくなる。</p> <p>②情報収集の難しさ：⑦支所窓口での相談者へサロンの紹介および案内をして頂けること。④個々のケースに於いて相談していただけると協力を約束。</p> <p>②情報収集の難しさ：HP・ブログでの情報公開やラインなどSNSを使った当該者との交流</p> <p>【結論（考察）】</p> <p>事業計画は目標を十分達成できる内容であるとの評価を得た。また、ボランティアの募集などはより当該者の選択肢を増やす事にも適じ今後取り入れたい。計画の妨げとなる問題点としては事業所の社会における認知が低いので情報が収集しづらい点など情報公開で認知力を上げるや公共団体等に協力を仰ぎ相談数を上げる事で解決したい。活動内容は高いが問題点もありおおむね高いと自己評価した。</p>

## 事業計画の確認

### 重要性（評価の5原則）

当事業は生きづらさを抱えてひきこもる子ども若者たちが、自分のテリトリーから離れた空間で自分自身と向き合い自分を発見し生きがいを見つけ社会生活を送ることが出来るようになることを目的としている。そのために①寄り添ってくれる支援者と共有できる居場所「サロン”きずな”」、②寄り添ってくれる支援者（協力者）との出会い、③地域の特色を生かした体験で见つける”生きがいの種”の提供を行う事で当該者の笑顔の花を咲かせる事が出来るという事を検証したい。事業の問題点の解消として1、当該者「ひきこもり」の抱える問題点をともに考え、当該者の気持ちを外に向け一歩踏み出せる環境を整備する事に十分時間を掛けると共に、2、個人情報に留意しつつ情報の収集と整理を行っていくために当事業の情報発信を行う。3、協力団体等との協力体制（ネットワーク）の構築を図る。この3年間はこの事業の基礎をしっかりと構築したい。

## 今後の事業にむけて

### 事業実施における留意点

コロナ禍において、事業の進捗状況に遅れをきたしている。交流事業を中心に行う当事業はコロナ禍に対応した事業展開を繰り出す必要がある。事業の必要性を考えると状況に対応した”今出来る事”をおこなう。

- ①個人情報管理に留意し情報発信（FB,HPなど）からの情報収集と整理を行う。
- ②コロナ対応等の環境整備を行う。（携帯電話やSNSを使った対話など）
- ③関係各位とのネットワークの構築等に力を注ぎ、何時でも動く事が出来、受け入れる事の出来る組織力を構築する。

## 添付資料